

**テレビ番組の好感度に関する
マーケティングデータ
(簡易版)**

朝日大学マーケティング研究所

調査概要

調査方法	デプスインタビュー（個別面接法）
調査期間	2004年8月6日（金）～8月11日（水）
調査対象	首都圏在住の13～69歳男女
調査数	7名 （内訳） T女：1名 M1：1名 F1：2名 M2：1名 F2：1名 F3：1名
調査項目	<ul style="list-style-type: none">・日常生活におけるテレビ視聴の位置付け・テレビ視聴における好感度評価の構成要素

1. 日常生活におけるテレビの位置付け テレビ視聴の変化

視聴時間の減少

日常生活において、パソコンや習い事など、テレビ視聴以外の時間が占める割合が増加し、相対的にテレビ視聴の時間が減少している。以前は、習慣的にスイッチを入れていたテレビも、他の生活行動に優先されるケースが増えてきている。

こうした状況は、テレビよりもパソコンのスイッチの方が長時間入っていると数名の回答に顕著に現れている。光ファイバーやADSLが普及し、常時接続が一般的となったことで、パソコンに向かう時間が増えた分、テレビの視聴時間が減っている。

また、買い物等で外出している時間も増えている。特に、若い世代では、ストレス解消のため、まっすぐ帰宅することが減り、カラオケ、買い物、食事などを楽しむ傾向がみとれる。

年齢による視聴傾向の変化

例えば、30代までは、バラエティを面白いと思って視聴していたが、40代を過ぎてくると、逆に、面白くないと感じ始めるようになる。ある年齢を超えると、心地よかったバカバカしい笑いに嫌気がさしてくるなど、加齢によって嗜好が変わってくる。番組の話題についていけないと思うようになったり、自分の年代に合わないと感じたり、視聴傾向が徐々に変化してくる。これは、画像から受ける情報量の多さやテンポ(スピード)の速さなどに対する適応力の衰えに起因するものと考えられる。

テレビに関する話題の減少

ここ数年の間に、以前に比べてテレビに関する話題が減ったという声が多く聞かれた。「冬のソナタ」などは周囲の評判や口コミから見始めたという人もいるが、お笑い系の番組については、「番組見た？」という話よりも、「お笑いのいいよね？」というようにお笑いタレント自身を中心とする会話に変化してきている。特に、10代、20代においては、テレビ番組そのものを話題とすることは少なくなっているようだ。

<具体的な発言事例>

視聴時間の減少

「習い事とかやっていますので、(昼間は)いる日とない日があります。その日にやってる番組の内容に、新聞を見て、割とテレビも、ニュースとかその辺は毎日見ますが、それ以外は自分が見たい番組の曜日しか見ません。後はもう、どっちかというと他のことしてますので。ドラマも、自分が見たいドラマがある時間帯だけ見て、その後は他のことをしてしまうことがあるもんですから。今は(見たい番組がある時以外はあまりテレビは)あまりつけてないですね。ついててもそのまんまついてて、パソコンやったり他のことをやってたりしてるものですから。(テレビを見ながらパソコンをしてることも)結構多いです。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「割とうちにいとやっぱり習慣的にスイッチを入れてしまうって、生活の一部にはなってはいたんですけども、最近そのパソコンをやりだしたとちょっと習い事をしたことと。トータルですると、やっぱり(テレビを)見る時間は減ってます。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(テレビよりも)パソコンの方が使ってるかもしれない。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「前はよくドラマとか見てたんですけど、1回見逃すと全然分かんなくなっちゃうってというか、そういうことが度々あるんで、ここ最近バラエティとか、その時だけ分かるような。予約をすればいいんですけど、なんか予約をせずに思い立った時にやるもんで、ビデオ自体も忘れちゃって。(昔ほどドラマは?)そうですね、全然見なくなりましたね。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(昔に比べてテレビを見る時間は)減ってはいるとは思いますけど。(減ってる時間は)家にいない。まっすぐ家に帰らずプラプラと買い物だとか。買い物とかも結構、ストレス解消的なもので。それとかカラオケとか行っちゃうんですね、1人で。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「いったん外に出ちゃったらテレビがどうでもよくなる時もある。(街に出てたら、好きな番組もまいいかってなる?)たまたま。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「あまりインターネット長引きそうだなっていう時は(テレビをつけることは)ないですけど。あと、ビデオを見ることも多くて。(テレビが消えるのは)ビデオ見る時と、他にちょっと仕事がかさんで、長くつけばなしにしてるともったいないって思う時は消しますけど。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「テレビ見る時間が減ってますね。(テレビを)見ない時間はインターネットです。(テレビは)ついてるけど、音で聞っかっていう。インターネットの時間の方が今、多いくらいですね。ネットサーフィンですね。メールチェックも結構時間かかるんですけど、メールとか登録してるもんで。メルマガとか。1時間くらいかかっちゃうんですよ、メール見るだけでも。あとは、ネットサーフィンですね。(このテレビを見たいから、というテレビ優先というのは比較的なくなってるんですか?)なくなりました、昔よりも。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「昔からテレビは好きです。昔は好きだったですね。(今のテレビは何か違うというのは)なんでしょね、そう思うだけかなのかもしれないですけどね。もっといろいろ興味がひかれることがあって。ウルトラクイズとかも、かぶりついて見てましたけどね。ドラマは見ないですね。まったくといっていいほど。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

1. 日常生活におけるテレビの位置付け テレビ視聴の変化

< 具体的な発言事例 >

「(テレビをつけていない時は)まあホームページとか、パソコンとか持ってきて、もしくは、本を読むか。(パソコンをやる時は)消します。うるさいんで。(パソコンやり始めてから)減りましたね、逆に(テレビは)ちょっとね。そういう意味では、ニュースとかその辺は、パソコンでもリアルタイムで結構入ってきますんで。(パソコンは常時接続?)そうですね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「午前中、ちょっと曜日によって出かけたりするんで、だいたいお昼過ぎくらいから、13時から14時くらいまでは。ただ、あとパソコンしちゃうんで、午後は、お昼食べる時、ちょっとつけるくらいかなって感じで、食事しながら。あとパソコンに入っちゃうんで、もう。(パソコンをやる時は)つけてないです。なんかもう、(パソコンに)集中しちゃって、出来ないんで。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

年齢による視聴傾向の変化

「自分の年のせいとか、バラエティ系の番組はほとんど興味がなくなってしまったものですから、そういうものを一切見なくなりました。(それまでは)割と見ていました。なんとなく、つかれませんか、面白おかしくはあったので。見なくなったのは、ここ1年ぐらいでしょうか。やっぱり、見ていて面白くない、内容的にどこを見ていてもさほど差があるわけでもなく、バラエティを見ていても、自分が面白いなと思える、そういう感じが自分でなくなってしまって、なんかちょっとつまらない、くだらないという風に自分がなぜか思えてしまって。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「特に『笑っていいとも!』とかは割と、それこそ日常生活の一部で前は見ていましたけど、昼間に家にいる時は、今はまったく見なくなりました。もちろん色々な内容と中身は変わるんですけど、出演者も、でもなんか見ていてもくだらないなと自分が思えてしまって。今までは習慣的にチャンネルを入れていましたけれども、今は毎日やっているものも日曜日にやっている増刊号も一切見ていません。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「最近のはあんまり、バラエティの茶化した感じの、今自分からするとくだらない番組に思えてしまいますので、なんか見なくなってしまいましたね。番組自体にたぶん、年のせいなのか、それを見てもその笑いについていけないんでしょうか、自分の中では面白いという基準から外れてしまって、そこに面白さが自分自身で見つけられないので、自分の中ではもういいなという感じでたぶんいると思うんですけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「昔ってなんか、テレビを見てても人と話してても、お腹が超痛くなるぐらい笑ったことがあったのに、最近はなんかなくて、ほんと痛くなるほど笑ってというのが、それを期待はしてるんですけど。あの時(『8時だよ!全員集合』)もすごい笑ったのに、なくなったんで。大人だから子供だからってことなんですかね、なんか分かんないんですけど。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

テレビに関する話題の減少

「(普段見ている番組は友達や家族の間では)あんまり話さないですね。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(友達同士でテレビの話題は)減ったかもしれない。話題としてはすごく減って、番組名が出るっていうんじゃないんで、例えばお笑いの人たちのグループ名が出てきたりとか、そういうのはするんですけど、『あの人たち面白いね』、そういう話は出て、番組名っていうのは最近出てないような気がする。『冬ソナ』が話題に出てきて、そんななんか巷で話題になる前に出てきてはいたんですけど、でも私は信用できずにいたら、周りがどんどん騒ぎ始めちゃって、すごく見たくなくなっちゃって今はまってる。前までは『ウォーターボーイズ』とかは話題に出てきたりしたんですけど、今やってるのはそんな、『冬ソナ』だけ。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『はねるのトビら』は)話題にはなる。最初はなんか、『どういうタイプが好き?』とか、そういうタイプの話になっても、やっぱりお笑い系の人の流れになったりとか。ああいう友達に欲しいとか。そういう時、話題がなんかしらこう繋がって、すぐに出てくるんで。(『昨日はねる見た?』とか?)じゃないんですけど。(『ロバートの秋山がいいよね?』とか人の話?)そう、そういう感じ。(話題になるのを見るのも1つのポイント?)そうですね。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(友達の間で)『あいのり』は話題にしたことなかった。(友達同士でテレビの話題は)たまにドラマとか、前、私じゃないけど周りで『オレンジデイズ』の話出てたりとか。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「やっぱり『トリビアの泉』が流行りだした頃は、みんなこう(『へえ〜』ボタンを押す真似)やってきましたけど。(今は)もうやっぱり、昔ほどはそんな。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『ポチたま』は近所の人とは)やっぱり自分ちのペットが一番だから(あまり話題にはならない)。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

1. 日常生活におけるテレビの位置付け テレビの位置付け

テレビで息抜きができる

テレビは、見ていて楽しくなれる存在。つまり、日常生活の中で、ストレス解消が図れる息抜きの存在であるという人が多い。リモコンのスイッチ一つで簡単に暇を解消できる家庭内の娯楽といったところである。自宅にいて気軽に時間つぶしができるものという点では、今も昔も変わらない。

日常生活の最大の情報源

テレビは日常の生活情報に関する大きな情報源。暮らしに役立つ情報、趣味の情報、新商品に関する情報など、多岐にわたる情報をテレビから得ている。同時に、そうした情報は、家族の話題のネタになっている場合も多い。以前に比べて、家族団らんでテレビを視聴しているという世帯は少なくなっているが、高齢者世帯ほど、テレビを囲んでの話題が多い。テレビで見た内容を会話の中心にしなが家族のコミュニケーションが図られている。

「ながら視聴」の傾向がますます強まる

朝起きたらすぐにスイッチを入れるなど、習慣的にテレビをつけている人が多い。もちろん番組を集中して見ていることもあるが、炊事をしながら、食事をしながら、勉強しながら、あるいは、パソコンに向かいながら視聴している場合が多い。特に、最近では、パソコンはテレビの傍らで電源が入ったまま置かれていることが多く、なかでも、リビングにあるテレビは、BGMのようにスイッチが入っていることが多い。「なかったら寂しく感じる存在」であり、「テレビがなければ、1日も耐えられない」というF1女性もいた。

割り込む携帯電話、携帯メールなどが優先される

テレビ視聴中に、突然割り込んでくる携帯電話や携帯メールのほうが視聴者にとってプライオリティが高い。携帯電話が普及していなかった時代は、好きな番組の視聴中には電話を断るか、かかってきた電話は後回しにしていたが、電話を手元に置きながら視聴できる環境に変化した今、「とても好き/とても面白い」と回答した番組でさえ、割り込んだ携帯やメールのほうが優先されることが圧倒的に多い。テレビは、携帯電話、パソコンにその時間を奪われ、相対的地位は、やや低下傾向にある。

<具体的な発言事例>

テレビで息抜きができる

「(自分にとってテレビとは)息抜きですか。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

「なんとも言えないですけど、暇な時はテレビ見てる感じ。(暇つぶし?)はい。」

<D T女・17歳・未婚・学生>

「(『ガキの使い』は)すっきりするというか。ストレス発散はありますね。単純に笑える、別に何の気持ちも入らずに見れて。『何してんだらうな』って。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「(テレビが提供してくれたらいいなと思うのは)好奇心。今インターネットに時間取られてて、インターネットだと自分で調べて、またそのページで見たいもの、知りたいことを見つけたら、そこからまた探して、そこでまた新しいもの見つけて、ってどんどん先に行きますんで。テレビは、『おもしろい!』とかって、ずっと流れてるのを自分で感じて。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「仕事がきりがついた時に、テレビつけたりすることもありますし。だいたい、21時以降ですか。(テレビは)やっぱり、見てて楽しい気分になれるっていうか。」

<F M2・44歳・未婚・給与所得者>

日常生活で最大の情報源

「朝起きて来て、食べて、出掛けるまでの間に、天気予報とかニュースも聞きたいのでとりあえず(平日の朝はテレビを見ています)。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「テレビも、ニュースとかその辺は毎日見ますが、それ以外は自分が見たい番組の曜日しか見ません。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「テレビなかったらやだ。なんかいっぱい、ほとんど情報をテレビから得てるみたい。色んなの。」

<D T女・17歳・未婚・学生>

「比較的NHKなんかもやっぱり見ますんで、知識だとか、自分の趣味とか。歴史もとか、将棋とか。毎週日曜日にやってますね。」

<F M2・44歳・未婚・給与所得者>

「家族の話題の中心というか、それになってしまいますね。やっぱりこういう年代になってくると、主人と話すっていても、何を話していいか、ちょっと話題もないんで。やっぱりテレビ見ながら、話題が出てくるっていうのが。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「(家事の間は)ラジオもつけてるんですけど、最近プロ野球とかが多くて、野球中継。だからどうしてもやっぱりテレビの方にいっちゃうんですね。で、今日のニュースも一挙にやってくれるんで、それ見れば、だいたいわかりますから。(テレビがなかったら)ちょっと話題が...っていうか、やっぱり。(ない)と困る?)そうですね。だから、これが壊れたらどうしようって思うことありますよね。(困るのは)情報ですね。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

1. 日常生活におけるテレビの位置付け テレビの位置付け

<具体的な発言事例>

「(『ためしてガッテン』を見ながら)ずっと前なんですけど、禁煙の回があったんで、主人はもう本当にタバコが好きなんで、禁煙の番組を見て、『もう、ちょっと気づいて』って。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「(『ポカポカ地球家族』は)家族が借りてる家の家賃が出てるんですよ。だから、『ああ、こんなに高いんだね』とか。(お国事情が)だいたいわかりますね。ひと月いくらで暮らしてるとかって言うから、『あれ、これじゃきついんじゃないかな』とか、『ああ、結構物価高いんだ』とか思ったりね。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「ながら視聴」の傾向がますます強まる

「自分が寝るのが2階ですから(朝)下に下りてくとスイッチを入れて、という形です。それは習慣ですね。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「今は(見たい番組がある時以外はあまりテレビは)あまりつけてないですね。ついててもそのままついてて、パソコンやったり他のことをやっちゃったりしてるものですから。(テレビを見ながらパソコンしてることも)結構多いです。パソコンはしょっちゅう開いてますから、だいたいでも、パソコンつけながらついてる時はニュースとかそういう感じの、割と聞き流せる、集中して見なくても耳の中で流せる時だけです。(他に何か、テレビつけながらやってることは?)料理を作るぐらいでしょうか。朝と夕方。(その場合の番組は、やっぱりニュースですか?)そうですね。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「割とうちにいとやっぱり習慣的にスイッチを入れてしまうって、生活の一部にはなってはいたんですけども。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「(テレビは)常についているもの。BGM。(見てるわけではなく)ついてる。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

「(朝)5時50分に起きるので、そこからもうすぐに見て。(見てるというより)ついてる。(深夜は)寝ながらついてる感じですけど。パソコンもしてますけど、その時もずーっとついたまま、見ながらパソコンしながら。うちにいる時はずーっとついてる。(起きるとすぐスイッチ?)はい。23時ぐらいまではずーっとついてます。家にいるならば。(家にいるとBGMのようにテレビがあるという感じ?)そう。(見たい番組がなくても)それでもなんかしら見つけて、絞る。ネットしながらとか。(テレビしながら一番しているのはネット)が多い。」

<C F1・27歳・未婚・パートアルバイト>

「(テレビは)いないと困る。なんだろう。1回壊れたことがあったんですけど、ないともう全然、時間もたぶん見てたんですよ、そのテレビによって今7時だな8時だなんていうのを見てたし、それに何の音がない、情報もなにもないとすごく寂しいっていうか、意外と見てないようで見てるのかなっていう。すぐに即効買いに行って、もう堪えられなくなっちゃって。」

<C F1・27歳・未婚・パートアルバイト>

「(『笑いの金メダル』は)ご飯時かな。食べながら。」

<C F1・27歳・未婚・パートアルバイト>

「(朝は)『めざまし』。たまに6チャンネルなんですけど、名前忘れちゃった。(他のチャンネルになっても8chにする?)はい。(朝は『めざまし』と決まってる?)一応。(見ながら)ご飯食べてる。(学校から帰ってきてテレビをつけるのは)19時とか20時とかにつけて、それからずっと流してる感じ。(リビングに行ったらテレビはつけるもの)まあ、そんな感じ。(テレビがないと嫌?)はい。(リビングのテレビを見る時は)夜、パソコンやったり、宿題やったり。あとはなんか色々。テレビなかったらやだ。」

<D T女・17歳・未婚・学生>

「(起きて)すぐつけますね。(出勤手前ぐらいまではずっと)ついてますね。(ついてはいるが)ほとんど見てないですね。インターネットをしながらですね。メールチェックとか、いろいろチェックに時間を費やして。なんとなく情報として、ワイドショーどんなのがあるかとか。(どちらかというと、目で見るというより、耳に入るという感じ?)耳に。(それで、何か気になったものがあれば目が行くっていう?)はい。インターネットしている時は、テレビは)ついてるけど、音で聞かなくていい。「ながら」でも、ネットやってテレビ見ることもできるし。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「土曜だと、何かおもしろそうなの見つけて、(テレビを)つけてしまいますね。特に何をもって決まったわけじゃないんですけど。(起きたらテレビを)つけますね。(なかったら)困ります。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「これ(『トリビアの泉』)はごはん食べながら。食べながらとか、横になりながらとか、リラックスして見る。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「(リビングのテレビは)主人が2階から降りてきて、支度して、ご飯食べるんでつけちゃうんですけどね。6時半くらいですね。出かけるまでついてますね。1時間くらい。それで消しちゃいます。私が家事やり始めちゃうと見ないんで。私も一応、音ですけど、ちらちら見てはいるんですけど、内容は。(食事の)準備しながら。(何をやっているかは)だいたいわかってるんですけど、ちょっとおもしろいなって思う時は、目が釘付けになったり、そうじゃないのは、全然。(何chかは)だいたいわかる...、わからないかな。何の番組を見るかはちょっとわからないです。チャンネルはそのまま主人のですから。(土日は)私も時々見ては、家事をしたり。(何chかはわからない?)もう、とっかえひっかえしてるんで。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「(午前中、家事の間は)小さいのはつけてるんですけど、ほとんど見てない。音だけっていう感じで。一応つけてますけど、ほとんど音だけっていう感じで。もう、ろくろく見てないです。ただ、事件とかあれば見ちゃうんですけど、なければそのまま。(リビングのテレビは)お昼食べる時、ちょっとつけるくらいかなっていう感じで。食事しながら。(夕方だと台所用の小さいテレビは)結構ついてます。ほとんど『ニュースの森』とか、ニュース番組。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「(リビングにテレビがなかったら)寂しいものがあるかなって。(台所の小さいテレビは)なんかやっぱり音がついてたら、家事が進むというか。(ないと困る?)そうですね。だから、これが壊れたらどうしようって思うことがありますよね。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

1. 日常生活におけるテレビの位置付け テレビの位置付け

<具体的な発言事例>

割り込む携帯電話、携帯メールなどが優先される

「(テレビ見ているところで携帯が鳴ったら)出ます。テレビはボリュームを下げて。(メールが入ったら)もうメール。(テレビ)は“ながら”になっちゃう。(テレビはついている時間は長いけど、途中で割り込みするものがあれば、そちらが)優先される。そっちの方が大事になって。(割り込んでくるものは)携帯のメール、電話、来客。元々、パソコンが先つけちゃって。途中でテレビ見ながら『あ、パソコンやろう』ということはない。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(最近テレビは、自分の生活の中でパソコンや携帯がある中で、役割は変わってきた感じはしますか?)やっぱり、まず絶対じゃない。昔はやっぱりテレビがなきゃ、娯楽が無かった時代なんで、田舎だったんで絶対だったんですけど、そうでもないっていう。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

1. 日常生活におけるテレビの位置付け チャンネルの選択

ザッピングした中から選択

好きな番組がない場合、ザッピング(リモコンの番組スイッチをカチャカチャ押しながら番組を選択する)しながら、視聴する番組を選んでいくことが多い。基本的には、1-3-4-6-8-10-12というように、リモコンの配列の順番にボタンを押す。1周してCM中であったチャンネルは、2周目で確認する。そうしたザッピングの繰り返しの中で、特定のチャンネルにリモコンが止まる。

習慣的にザッピングするチャンネルが決まっている

ニュースを見るときには1chから、バラエティの時には4chから、ドラマは8chからというように、リモコンを押すチャンネルの順番が決まっているという人もいる。局に対するイメージによって、好きなチャンネルからスイッチを押す、あるいは、一番に押すチャンネルがジャンルによって、あるいは、時間帯によって決まっているという傾向もみられる。

特集で見る番組を決めることがある

平日夕方のニュース時間帯は、番組というよりも、特集のテーマによって視聴する番組を選択することが多いため、新聞やHPのラテ欄を見たり、リモコンでザッピングをしたりして視聴する番組が決まる。この場合、キャスターの質、好感度に起因する評価とともに、特集ネタに基づく評価が多くを占めている。

<具体的な発言事例>

ザッピングした中から選択

「(よくついでチャンネルは)スカパーの方をどっちかって言ったら、つけてるかもしれないです。もしかしたら、地上波よりつけてるかもしれないです。スカパーの中でザッピングしながら、とか。(チャンネル数は)40chぐらいは契約してるんで。全部見ないですけど、40chの中でちょっと気に入ってるやつは、見て、5~6個ですかね。で、地上波見て、どれか比べておもしろいのやってたらって。(スカパーと地上波)順番はどっか、地上波からかもしれないし。(地上波の場合は)番号順からが多いですね。NHKは飛ばします。4ch、6ch、8ch。で、10ch、12ch。(1周して)で、スカパー、みたいな。(ザッピングする時は)4chから押しますね。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「ニュースの場合は、特にどれってことは、『報道ステーション』とかですかね。(他には)『ニュースJAPAN』だとか、『きょうの出来事』とか、ザッピングしてる。10時台で何も見るものないなって思ったら、『報道ステーション』見て。11時になったら、また違うバラエティ始まって、そっち見たり。見るものなかったら、ザッピングして。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「好きなものはやっぱりじつと見ますけど、あんまりこう『うーん』っていうのはコマースの時に変えちゃうとかありますね。結構。(ザッピングは)もうランダムに。(ザッピングは)もうランダムに。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

習慣的にザッピングするチャンネルが決まっている

「(見てる番組がつまらなくて替える時、リモコンを押す順番は)だいたいでも選択するチャンネルは2つか3つぐらいの中で決めますから、1つ見てつまらなくて次の別のチャンネルを押すのも、だいたい決まっていますね。(平日の)朝は8chか10chでしようか。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「(朝は)決まっていますね。『めざましテレビ』見てる。(ついた時には)8chに)なっています。(もし違うチャンネルになっていたら)8chにしちゃう。(途中で)変えてはいるんですけど、結局元に戻っちゃうようなところがある。(押す時は)1chから12hに向かって。3周ぐらいして、どれかに。たぶん最初のひとまわりの時はCMも入ってるところがあると思うんで、その時に見れなかった時の場合。(止める時は)出てる人とか。」

<C F1・27歳・未婚・パートアルバイト>

「水曜だったら、フジテレビのバラエティやってるんで、フジテレビから押したりとか。もう、何時に何やってるなっていうのは、大体わかるんで。(押すチャンネルは)決まってきますね。何にもやってないなっていう時は、4chとか10chとか押したりして。目的があつての時は、そこに立ち寄るっていう。(バラエティの時は)8ch、4chが多いですね。最近、10chも面白いんで、10chも見ますけど。」

<E M1・23歳・未婚・学生>

「(ザッピングは)もうランダムに。結構TBSは、考えたら6chは結構多いかなって思ってるんですけど。(6chを先に押す?)それはいいんですけど。でも、あちこちやって6chがいつも、6chにおさまってるかなっていう気はする。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

「固定はしてないです。ただ、12chですか、テレビ東京はあまり見ないですね。ニュースの時間帯が違うんでしょうか、アニメやって、あまりチャンネルが行かないですね。そうすると、リビングの方のチャンネルもあんまり。」

<G F3・56歳・既婚・専業主婦>

1. 日常生活におけるテレビの位置付け チャンネルの選択

< 具体的な発言事例 >

特集で見る番組を決めることがある

「ニュースも見ます。(見る番組を決める時は)話題。ニュースの中身。ニュースに関しては、テレ東も『ワールドビジネスサテライト』とか、コンピューター好きなんで、おもしろそうだなって興味ひかれたものは見ますね。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「ドキュメンタリーは、ニュースでたまたまやってみたりとか、『スーパーテレビ』とかは、おもしろそうだなって時は見ますけど。テーマがおもしろそうだなって時は見ますけど、特別は。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(今日はコレ見なきゃというのは)ありますね。特に家事をしてる、台所に立ってる時に、ニュースの『スーパーチャンネル』とか、TBSの『ニュースの森』とかって、特集組んでますよね。あれ、日によって違うんで、結構新聞のテレビ欄をじっと見て、『このチャンネルは、今日はいいのをやる』とか。(チャンネルよりも特集で)結構決めちゃってる。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「やっぱり17時台のニュース。『スーパーチャンネル』とか、あと安藤さんの(『スーパーニュース』)。あと、日本テレビのニュースが見なくなっちゃったかな。時間帯がちょっとずれてるのかもしれない。ちょっと何か違うんですね、他と。TBSは結構テーマがよくて、特集の、結構見ちゃうことが多いですね。で、日本テレビのニュース(『プラス1』)があまり最近、テーマもあまりよくないし、全然回さなくなりました。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(日本テレビのニュースを見なくなったのは)つまんないし、あと、司会者が、キャスターですか、あまりパツとしないキャスターだと思ったんですけど。やっぱり、小宮さんとか安藤さんとか、なんかこう味がある。(『プラス1』は)男性かな…。最近、全然見てない。やっぱり、キャスターの感じが、女性キャスターの小宮さんと安藤さんは明るさがパツと。(明るさがないと)ダメですね。(料理しながらの時に)暗いとね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

「新しさ」

他にはない新しさ、特徴がある

従来の番組と比べて、他にない新しさ、すなわち、オリジナリティ(独自性)がある番組は、「とても好き / とても面白い」と評価する傾向がある。

例えば、「世界ウルルン滞在記」は、あまり有名でないタレントが海外の各地で様々なことにチャレンジ、経験することにクイズが加わった番組で、今までにない構成で新鮮さを感じられた。「東京湾景」では、「在日韓国人の恋愛」というテーマが新鮮で、日常生活の中で気が付かなかったテーマが取り上げられているため、興味を惹いた。

また、「ワールドダウンタウン」の外国人がアテレコでしゃべるスタイルは新しく、「ありえない」、「やりすぎ」と思えるくらいこれまでの番組にはない「新しさ」がある。「ワールドビジネスサテライト」は、経済ニュースが中心で他にはあまりないコンテンツ。特徴が明確であり、旬のテーマがリアルタイムに供給されている。

新鮮味がある(常に新しさを感じる)

長寿番組でも、いつも新しいと感じる番組の好感度評価は高い。こうした番組は、構成の変更、コーナーの入れ替え、MCの交代など、マンネリ化させないために変化させる、すなわち、新しい試みを継続的に行うことで、常に新鮮味を出し続けている。大抵、長く放送しているうちに、以前と同じ内容のものを取り上げると、急速に興味を失ってしまう。特に、T、F1、M1層においては、「新しいもの」に対して評価を上げる傾向が強いため、新鮮味がないと関心が薄れる。(高齢になるほど、「常に新しいもの」には、抵抗感が生じてくる。)

タレントの起用においても同様のことがいえる。これまでコメディにしか主演したことがない女優をラブストーリーに抜擢し、うまく役柄にはまった場合には、「新しさ」を感じさせられる。(例:仲間由紀恵主演の東京湾景)

また、毎週ゲスト出演者が変わるトーク番組では、常に目新しさを出すことが可能なため興味を持続させやすい。ペットコーナーでも登場するペットが毎回変われば興味は続く。しかしながら、そのパターンさえも飽きてくれば、そのパターンを少しずつ変えていくことが必要となる。

<具体的な発言事例>

他にはない新しさ、特徴がある

「(『世界ウルルン滞在記』は)1週間の滞在で色んな新しいことを経験していくっていうあのスタイルの番組が、あんまり他にはなかったと思いますので。割とその中の質問コーナーにしても、それまでにはたぶんなかった感じだったので、それがちょっと新鮮だったものですから。何か新鮮な感じが面白かったです。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「(『東京湾景』は)やっぱりそのドラマの中で見ながら、こんなことも悩んでたんだってことを、この年になっても知らなかった部分が結構ありましたんで、大変なことなんだろうなっていうのを実感したこともあります。新鮮なドラマですね。その扱ってる部分が、今まで扱ったことのない、初めてのドラマ。主人公が在日韓国人の方をテーマにしたっていうことが一番でしょうか、やっぱり。やっぱり今までは扱ったことなかった、ほんとに悩んでらっしゃる実際の出来事が具体的に出てきますから。それは私たちはやっぱり今までは気付かなかったことですから、それはほんとにそう思いますね。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「(『東京湾景』の場合)あの相手役の方(和田聡宏)はほんとに初めて見た方でしたので、どんな人なのかなととても興味津々では見ていますけども。まったく世間一般には無名の方を起用して出たことが、とてもドラマとしてはよかったんじゃないかなと思って見てますけど。」

<A F2・49歳・既婚・専業主婦>

「(『ワールドダウンタウン』は)他にはない感じ。ニュースっぽいスタジオで外人さんが3人ぐらいとダウンタウンでやってるんですけど、外人さんがしゃべるんですけど、深夜のアメリカの通販番組みたいな声の人がしゃべって。アテレコみたいにして。それがものすごい面白くて。たまにずれたりとかするんですよ。あと無理やりやらされてる感とかがすごい。ワールドニュースみたいな感じで、外国のニュースをやるんですけど、いつも同じ人が出るみたいで、変な、うまく説明できない・・・キャラですかね、その。リポーターが出るんですけど、そのリポーターのキャラが強烈で、ありえないんです。なんか、失礼なんですよ。リポートする相手の人に対して、つばを吐いたりとか、ほんとにありえない。やりすぎっていうか、ゴールデンではできないだろうなって。抗議来そうな。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

「(『ワールドダウンタウン』は)今までの深夜番組やバラエティと違う?)そうかもしれないですけど。(ニュース風にやっているのも新鮮?)そうかも。パロディ番組みたい。普段ニュース見てるから余計面白いのかもしれない。ニュースの格好取ってるんですけど、実質ニュースじゃないんですね。そこが面白いんです。ダウンタウンがやってるんだけど、そのダウンタウン以外のところで笑える。通販番組っぽいところかな、声の。何が面白いのか分からないで笑ってるんですけど。笑いっぱなしですね。もうその雰囲気、面白い。ありえない感じで。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

「(『ワールドダウンタウン』がそのほかのバラエティと違うのは)やっぱり、新番組、新しいから。他のもの面白いけど、やっぱり慣れて来ちゃう、笑いに。それもあって思う。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

「(『人間の証明』と他のドラマとの違いは)なんか他は、離婚した夫婦とか、聞いたことあるような、内容分りそうな、トレンドドラマっぽいありふれたやつかなと思って。たまに重い、考えさせられるようなドラマ見たいなって。」

<B F1・22歳・未婚・パートアルバイト>

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「『ワールドビジネスサテライト』は面白いんですね。新製品とか、最近の経済の流れとか分かるんで。株価が上がったとか下がったとか、これからの景気がどうなるとか。最近だとあの三菱自動車の関係のニュースとか、そういう面白いニュースがいっぱいあって。(NHKのニュース)より経済ニュースが多いんですよ。(そっちのほうがおもしろい?)そうすね。他のニュースだと、やってる内容が全部同じなことが多いんで、ニュースの内容が。それだったらひとつ見れば済むじゃないですか。他の時間帯に違うニュースを見て、『ワールドビジネスサテライト』がやってる時間帯には『ワールドビジネスサテライト』を見る。(他とは)違うと思う。やっぱり経済ニュースばかりだからです。事件のこととかってまずやらない。そういうのはまあ、他のとこで見れば。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「『ヘキサゴン』も好きなんですけど、『ヘキサゴン』もおもしろいんですけど、どっちも独自性があるし。他と違うっていうのは、やっぱりいいですね。(他に似たような番組は)ない、ない。(両方も)ですね。(とても好きな番組は)どっちも独自性があるっていうのはあるんですけど。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「『ガキの使いやあらへんで』は、企画は奇抜です。他じゃたぶんやれないと思う。(それが続いているのでマンネリを感じない?)そうすね。多少、マンネリを感じてることもあるんですけど、『利きレモン』って、この前やってたんですけど、16回目だつて。『ああ、またか』みたいな。いや、見ますけど。それでも見ます。おもしろければいいです。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(とても好きな番組は)3つとも独自性は(あるので)。こだわって作ってる感じはしますね。独自性があつた方が好きですね。(独自性がはっきりとある方が)強いすね。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「新しい企画もいっぱい出してるんで、『虎の門』も。夜中にしりとりやってたり。おもしろい単語のしりとりとか。(期待を裏切らない?)裏切らないすね。今のところは裏切らない。よっぽど、なんか、『あれ、感じ変わっちゃったな』って思ったら。番組の『なんか、あれ?スタッフ変わったのかな』とか、感じが明らかに違うなって思ったら、おかしいと思って見なくなったりしますけど。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「『みなさんのおかげでした』は内輪ネタを結構つづにやってるっていうのが、やっぱり他の番組にはあんまりないかなつて。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

新鮮味がある(常に新しさを感じる)

「(『東京湾景』の仲間由紀恵が)ラブストーリーのドラマに主演するのも初めてと聞いてましたので、それもちょっと楽しみかなと思って見始めてますけども。ただあの相手役の方(和田聡宏)はほんとに初めて見た方でしたので、どんな人なのかなととても興味津々では見えていますけども。まったく世間一般には無名の方を起用して出たことが、とてもドラマとしてはよかったんじゃないかなと思って見えてますけど。その無名の人が出てきたのはよかった。その狙いは当たってたかなと思いますけども。とても今までに見たことのない、風貌も含めて。力が入ってない演技でありながら、何かこう独特の雰囲気を出してるってところが、とても表現が難しいんですけども、とてもドラマのあの役には合ってると思いましたね。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『人間の証明』は)いくつかの3本ぐらい主人公っていうか主体になる人がいて、それがちょうどよく交互に。飽きない。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ワールドダウンタウン』でも)ずっと同じ感じだったら飽きてくる。3ヶ月ぐらいですかね。何も変わらなければ。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「あんまりやってる番組少なくて、『仰天ニュース』系のことを。あと『まる見え』とか『アンビリバーボー』それぐらいしかやってない。たぶん、『仰天』は、いつも新しいの流すんですけど、『まる見え』は同じの何回かやったりとか。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「新しい企画もいっぱい出してるんで、『虎の門』も。夜中にしりとりやってたり。おもしろい単語のしりとりとか。出てきますよ、いろいろ。この前も新企画出てきてたし。『虎の門』って変わって、メインMCの人が毎回変わるんですよ。毎週なんか変な人に。サブMCが、勝俣(州和)とか坂下千里子とか。それで、なんか変な人が毎回、カイヤが出て来たりとか違うんですよ。サブがしっかりしてるんで。(勝俣州和や坂下千里子)もおもしろいです。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『みなさんのおかげでした』を見始めて)長いすよ。この番組、長いすよね。タイトルは変わっても。ほぼ10年以上は見てる感じすね。毎週、ほとんど見えます。昔の番組内容よりも、今の方が逆に好きすね。昔は子供向けのかぶりものみたいなやってますけど、今の方が逆にちょっとこう大人が見ても耐えうるような感じになってきてるんで。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ダウンタウンDX』は)ゲストがいるいる変わるから飽きない?)そうすね、それもありますね。(『みなさんのおかげでした』や『ダウンタウンDX』は)やっぱり、いろんなゲストが来る番組なんですけど、毎回メンバーが違うというのがありますので。それで番組自体も結構いいかになって形で、いられるんじゃないかとは思いますが。(メンバーが変わると目新しさがある?)ええ。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ためしてガッテン』は)ほとんどもう、知りたい情報がいっぱいなんで、飽きぐるってことは今のとこないです。(同じようなことをやってることも)あるけども、忘れてるすよね。こないだやったのになって。先週そうだったかな、春から夏までの要望の多かった番組、タイトルで繰り返してやるんです。やっぱり復習みたいで、見ちゃいます。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ボチたま』をつまらなく感じたことは)ないすね。毎回違う全国からのおもしろいペットを集めてくるから飽きないすね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

情動喚起(刺激)

心温まる、ホッとできる

番組を視聴して、心が温まるような番組、ホッと癒されるような番組は、好評価である。例えば、「世界ウルルン滞在記」では、外国の人が日本人を温かく受け入れている姿を見ると、感激する。どこまで真実かわからないが、心が通じ合うものがあると、心温まる、ホッとできるといった感覚が味わえる。テレビ番組であるが、募金をしたり、支援活動をしていたり、タレントが番組を超えて取り組んでいる姿を見ると、「普通の番組ではない」と思える。

また、「ポチたま」のようなペット(動物)が登場する番組は、「面白い」、「かわいい」、「癒される」という評価が多い。動物は、家族や友達との間の話題として事欠かない。特に、ペットは身近であるため、関心が深く、話題に上りやすい。

また、番組を見ている時だけでなく、見終わった後も、気分を害することなく、心が和む番組は、好感度が高い。「余韻の心地よさ」を感じられるかどうかも評価を上げるポイントとなっている。テレビ画面を通して、気分よくなる、さわやかな印象を受けるといった番組は評価される。

笑える、泣ける

「ワールドダウンタウン」のように、「ゲラゲラ笑える」、あるいは、「あいのり」のように「もらい泣きできる」番組は評価が高い。単純に、「笑えればよい」、「泣ければよい」。こうした心の機微に触れる番組、すなわち、喜怒哀楽が感じられることが重要な要素である。主人公に共感できる(具体的には、哀しくなったり、楽しくなったりできる)ドラマ、パカパカしいが、笑えるバラエティなどが受けている。

そして、「人にやさしくしようと思う」、「私のがんばらなくてはと思う」など、その番組から自分が勇気付けられることも好印象の要素である。番組から元気をもらったり、勇気付けられたりするような要素が盛り込まれているかどうかポイントとなる。

ワクワク、ドキドキする

番組を見ていて、どう展開するのかワクワク、ドキドキする番組は、「とても面白い」と感じる。例えば、「世界仰天ニュース」は、ミステリアスでびっくりするような出来事が見られるところが好きだという。

ドラマなどシリーズものの場合でも、次回どうなるか展開が読めないときには期待が膨らむ。ストーリーがどうなるか、どういう方向に展開するのか、展開が読めないほど、興味深い。そして、期待通りの面白い展開となれば、満足度は上昇する。しかしながら、期待を裏切り続けると、その評価は急速に低下し、視聴しなくなる。番組内容と同様に、期待できるキャストであるかどうかも大事である。お笑いの場合、笑わせてくれる、楽しませてくれるお笑いタレント(すなわち、好きなタレント)が出ていれば、期待を裏切らないだろうと思う。

ドラマでも同じである。「このキャストならきっと満足させてくれる」という意識も働く。主演俳優を見たくてドラマを視聴している。なぜなら、その俳優が演じる役柄、容姿、振舞い、しゃべり方などに魅力を感じており、その人を見ることによって気分が満たされると想定できるからである。

<具体的な発言事例>

心温まる、ホッとできる

「(『ウルルン滞在記』の好きなところは?) ああいう風に温かく迎えてくれる他の国の人の接し方を見て、ああいう風に自分もできるんだろうか、と試してみたりもするし、とって心との交流が、まあテレビの番組ですからどこまで真実かはほんとに分らないんですけど、それでもやっぱり見ながら、お互いに心を通じ合わせてるものがあるなと思うのを見ると自分も気持ちがとってホッとするとというか、あったかく自分もなれる。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『ウルルン滞在記』の再会スペシャルで) 東ちづるさんがドイツにある、名前忘れちゃいましたけど、戦争で負傷したお子さんとかをボランティアでやってるところに行かれた番組を見て、なんかとてもそれも、こういうところにも行ってこういう取材もしてるんだってちょっと思ったことがあって、それもどこかあるでしょうか。単なる番組ではあるんですけども、なかなかそういうことは他の番組もやってませんでしたから、それを実際報道して、もちろん募金もしたり色々彼女も何度も行ったりしてましたから、そういう意味ではとって意義がある番組かなと思ったりもしたので。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『ウルルン滞在記』は) 見ながら見終わったあとに自分がホッとできる番組だになっていがあるので、たぶん見続けてるんだと思うんですけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『ウルルン滞在記』は) 見終わった時にやな感じが残らないのがとても好きですね。見終わって、ホッとできる感じが一番いいですね。やはりこう、見終わって嫌な気持ちになる番組は嫌ですので、見ていて心が和むっていう感じがありますので、それがあからたぶん見てるんだと思うんですけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「まあテレビって分かんないじゃないですか、ほんとのことなのか、極端に言えばやらせがあるのか、その辺もよく分かりませんので、ああいいなと思いつつも、ほんとかんなくて半分ちょっと疑ってみたりもしますけれど。ただまあ、見終わった時に、よかったなっていう気持ちになれるので、見てるっていうことですね。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「(『東京湾景』の好きな部分は)あとそのテーマ曲とか挿入歌がそのまま韓国語で流れてますし、やっぱりそれを聴いてるととても心地よく感じますので、そこが一番でしょうか。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『ガキの使いやあらへんど』は)ただ、変わったことやってるなって。他で真似できないような企画なんで、やっぱり。『それ30分もやって、誰が見るんだろう?』みたいな企画やってるんで。(『よくやるな』みたいな)それもある。すっきりするというか。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「『ポチたま』は『まさおくん』と松本くん』っていうペアになった彼らが、全国をあちこちペットを求めて行脚するんですよ。で、そういうコーナーと別に『おもしろペット』っていうのがあって、おもしろいペットを紹介するコーナーがあって、本当におもしろいんですよ。芸をするイヌだとか。それこそ一般家庭のペットなんですけど。(見ると)よけいに欲しくなっちゃうんですけど。でも、癒し系で。かわいくて、おもしろい。本当におもしろい芸をするイヌがいるんですよ。そういうのを見て、『いやー、こんなことできるんだ』とか思いながら。(見ることで癒される?)そうですね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『どうぶつ奇想天外』でも動物は)見れるけども、割合、クイズの方が主流で。だから、いまいちあまりそんなに好きではない、やっぱり。見ることは見ますけど。やっぱり、かわいさがあるのかな、『ポチたま』の方が、『どうぶつ奇想天外』っていうのは、もう動物も全般ですよ。で、『ポチたま』はイヌとネコです。(『ポチたま』に期待しているのは)かわいさと、『ペットを飼ってるとこんなにいいんだよ』っていうのがわかるっていう。(見ると)飼いたくなっちゃう。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ポチたま』は主人と)一緒に見ます。だいたいご飯一緒に食べてる時に、癒し系の見ながら『ああ』って話題になったりして、それで野球とか見ると、ご飯がおいしくないって感じになっちゃうんで、やっぱり癒し系で。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ポチたま』は)弟夫婦がよく見てるんで、近くにいるんですけど。やっぱり見てるらしくて、それで飼いたしちゃうって人達なんです。(会話の中にも)ええ、出てきますね。『あれがかわいい』だの『これがかわいい』だの。(近所の人とは)やっぱり自分ちのペットが一番だから(あまり話題にはならない)。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ボカボカ地球家族』は)楽しいっていうか。あと、あったかい感じ。あったか、『“ぼかぼか”地球家族』なんで。最初どんな感じの番組かと思ってたんですけど、初めて見た時。そしたら、なんか本当に心温まる、家族主体だったから。『ああ、本当に“ぼかぼか”なんだな』って思ったことがありますね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「『ポチたま』は、本当に癒し。自分の中での癒し。自分の中ないから欲してるっていうか、そういうことがあるのかもしれないですね。(癒しも)そうですね。やっぱり、ペットも欲しいから、それで(番組見て)我慢してるかなっていう感じがあります。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

笑える、泣ける

「ゲラゲラ笑えるのが『ワールドダウタウン』で、ブツ笑うのが『内P』、みたいな。(『ワールドダウタウン』は)30分笑っぱなしですね。来週も見ようって思う。笑っぱなし。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ワールドダウタウン』は)ダウタウンがやってるんだけど、そのダウタウン以外のところで笑える。通販番組っぽいところかな、声の。何が面白いのか分からないで笑ってるんですけど。笑っぱなしですね。もうその雰囲気面白い。ありえない感じで。なんか、規模小さい感じ。ワールドニュースなんですけど。深夜番組っぽい。30分じゃないですか、なんか濃厚な感じがする。ギュッと詰まってる。30分一気に笑って、短く終了してっていう感じ。(CMで中断しても)すぐ笑える。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ワールドダウタウン』は)バカっぽい感じがいいんです。笑えればいいですね。外国人が無理やりやらされてる感が面白い。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『人間の証明』を見ると)悲しくなったり、結構主人公に共感したりとか。見る間も謎を(考える)。謎っていうか、色んな人生が絡み合う感じなんです。最後にはひとつに収束するっていうのをどっかで読んで、どうやって絡むんだらうなって。人に優しくしようとか、そういうなんか教訓みたいな。(見ている間)どうなるんだらうって。悲しい場面では悲しくなるし。入り込んで。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ありのり』は)ほんとに友達が出てくる感覚でいるんで、その人がどんどん変わっていくのを見るのも面白いし、何かしら心に傷みたいなのを持った人が出てきてるんで、その克服とか、なんかこうやってこの子がんばれるんだから、私も、的な。自分も元気になるようなところがあるし。全然人としゃべれない子がいたんですけど、ほんとにガラッと変わって、強い考え方を持つてんだなって。その子が自分よりもほんとは考えのない子なんじゃないかなって最初は思ってたんですけど、実はものすごい色んなことを考えてて、なんか自分自身ももっとしっかりしなきゃとか。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ありのり』見ながら)自分も恋愛してる感じ。(自分に)かぶせてます。しますよ、もらい泣きしてますよ。私も一緒に。加藤晴彦が泣くと、絶対泣くみたいな。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『あいのり』は)泣かせてくれる。(他にテレビ見て泣くことは?)『ウルルン滞在記』とか。毎週は見ませんけど、たまには。よし、泣きに行くぞみたいな。(『あいのり』は)笑い。(泣かせてくれたり、笑わせてくれたり?)はい。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『はねのつばら』に期待しているものは)笑い。同じ設定なのに、また笑えるっていうところが好き。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(好きなテレビは)身近に感じるもの。感情の起伏があるようなもの。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「(『ガキの使いやあらへんで』は)大笑いはしないです。『ああ、いいな、こういう仲って』とか、『楽しそうだな』って。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『ガキの使いやあらへんで』は単純に笑える?)はい。ゆったり見れます。『トリビア』だったら、ちょっとでも自分の中に入れようって思ってるところがあるんで、前のめりで見ますけど、『ガキの使い』は(見ながら)寝ることも。(おもしろい以外で表すと)ばかばかしい。ストレス発散はありますね。単純に笑える、別に何の気持ちも入らずに見れて、『何してんだらうな』って。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『虎の門』が好きを違う表現で表すと)『おもしろい』です。笑える。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『みなさんのおかげでした』を見ると)結構ね、元気が出るんですよ。1人で笑ってますしね。いろんな芸能人とかゲストで出てくるじゃないですか、いろいろ考え方が、本音の部分で、番組で流してるんで。ああいうトークが、まあ好きだということですかね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ダウンタウンDX』は)まあ肩を張らずに見るのは、何も考えずに笑ってられるっていうのが。(どんな番組かという)『笑える』でしょうね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『内村プロデュース』は)この番組はなんか、内輪だけでやってるような感じなんですけど。あまりのこうパカパカさってというか、そういうところが、意外とツポにハマっちゃって。くだらないことやるんで、本当しょうもないことやってるんですよ。別に、笑いを期待して見てるっていう感じでもないんですけど。(ある一定の楽しさ)は、感じてますね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

ワクワク・ドキドキする

「(『世界ウルルン滞在記』は)場所とか行くところもみんな違いますから、とてもこう、なかなか展開が読めないところがあって、見る時はとても面白い、どうなるんだらうなという面白さ、ワクワク感がありますね。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『東京湾景』に期待しているのは)もちろん純粋なラブストーリーも見たいなと思いますけど、やっぱり内容が、今までの日本のドラマの中では扱ったことのない、割と重たいテーマを扱ってるドラマですから、それが茶化した感じで終わられたら嫌だという。次回どうなるんだらうなってとても期待を持って見てるといって感じでしょうか。どういう風に展開して、どういう風にこの話を最後エンディングまで持ってくださるかって、そっちの方に興味があります。見ている間も、ストーリーが、どういう風に展開していくんだらう、ここでどんな風になってしまうのかなっていうのが一番気になるんでしょうか。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『東京湾景』を見ながら)テンポも含めて、割と話が複雑ですから、ストーリーの組み立て方がどうなってるのかなってのを考えながら、どういう風に展開させて、やっぱり展開・・・そのラブストーリーをどういう風に終わりに持っていきたいのか、それに関する親との係わり合いをどういう風に実際にはこのドラマでは描いていくんだらうとか、やっぱり全体的な展開になってしまいますけども。ただの純愛のラブストーリーではなく国籍の問題、色々そういう他の複雑な問題を絡めたお話ですから、そういうところもどこまで実際にお話にラブストーリー絡ませて、どうやってほんとにこれをエンディングまで持っていくんだらうかと、とても興味を持ちながら見えています。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『ワールドダウンタウン』は)ダウンタウンが企画していると面白い可能性が高い。(ダウンタウンが出ている深夜番組というだけでおもしろそうなイメージ?)ああ、ちょっとそうかもしれない。深夜じゃなくても。(『ワールドダウンタウン』が30分間笑えなかったとしたら次は見る?)見る。次に期待します。次もだめだったら見ない、2回続けて笑えないと見ないです。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『人間の証明』は)やっぱり、先が見えないところとか、なかなか予想できない。あとなんか、すごい恋愛主体じゃないっていうか。謎が謎を呼ぶみたいなストーリーが好きなので、そういうのだといいなと。最後まで謎が解き明かされないで、最終回でこうだったのって、そういう驚きを求めて。ドンデン返し、そうですね(ある方が好き)。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『あいのり』は)徐々にチャンネルを合わせて見てみたら、ああ次が見たいって風になって、見ないって、その見始めた時に、前知ってた人がまだ残ってたんですよ。それで、ああ、まだいたんだ、みたいな感じで見始めた。今のところないです、飽きるってこと。もちろん全然恋愛の流れがない時は、どうなのかなと思ったことはありますけど、変わらない。(次が早く来ないかって)毎回期待してるような気がして、自分も恋愛してる感じ。(自分に)かぶせてます。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『はねのつばら』は)毎回欠かさず見ます。深夜でやってた時は、その時なんか中川家とかも出てたような気がするんですけど、その時にはまって。(見始めたのは)それも偶然。意外と、知らない人たちだったけど、面白いなと思って。2回ぐらいたまたま偶然見たんですけど、その時も面白いと思ったんで、じゃあ次回から見ようかって。コントが私好きで、昔ダウンタウンの『夢で逢えたら』、そういうコント系がとにかく好きなんですけど、最近ないなと思ってたらそういうのがポコッと出てきたんで。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『はねのつばら』のおもしろさは)ロバートの秋山が、好きっていうか。(ロバートの秋山が見たいためというの?)あります、あります。いや、『馬場さん』も結構好きなんですけど、色んなキャラが、『馬場さん』にしてみても、ひとつ決まったコントが、それがローテーションがあって、あれが好きで、それぞれコントを持ってるような気がするんですけど、なんか習慣的なものがあるような気がする、『はねの』に関しては、たまに面白くないと思う時もあるんですけど、でも見ちゃう。見なくちゃいけないような気がしちゃってる。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「(単に笑えるからというよりもロバートの秋山が好きとか、彼らが笑わせてくれるから『はねるのトビら』が好き?)そうですね、きっと。『エンタの神様』も、あれが好きだったんですよ、陣内友則が好きで、それも最近出なくなったから、っていうのもあったかも。(好きなお笑いが出てたら)見ちゃいますね。その私のツボに合ってるような。(お笑いはこのお笑いタレントが出ているから?)はい。(常に自分の期待に応えてくれる?)ああ、そうですね。絶対笑ってるんで、私とツボが合っているよう。第一印象で面白いと思った人は、比較的ずーっと同じ笑いを提供してくれる。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『はねるのトビら』に飽きた感じは)ちょっとありますけど。若干。またそれかっていう時がたまにあるんですけど。ありますけど、その同じ設定でも全然違う笑いを見せてくれた人たちだから、今日はつまらないけど来週は面白いかもって、見ちゃう。でもそれが毎回毎回続いているっていうわけじゃないので、今見れてる。一応しぶとく見たいであろうっていう感じではある。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『笑いの金メダル』は)これも全然知らない人が多いんですけど、出てくる人が、意外と面白く感じる時が多くて。くりむしちゅーも好きなんです。だからかな。他に見るのがないっていうのもあったりする。『エンタの神様』と同じような気がしますけど、笑えているので、今のところは。(出てくるお笑いは)知らない人ですけど、でも勝ち残っていくっていうか、そういう感じなので、1回その人たちがツボにはまれば、やっぱり次も同じように出てくるし。(次誰が出るか期待もある?)はい。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『世界仰天ニュース』は)ミステリーって感じで。結構ミステリーとか好きなんです。面白い。この人犯人じゃないかなとか、なんかドキドキワクワク。(2時間サスペンスは)なんか日本のはちゃちい。本当にあった話だから、サスペンスなんかと違って。(つまらないと感じたことは)そんなにはない。(ドキドキワクワクは裏切られてない?)はい。(見終わると結構、満足?)はい。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「(『東京湾景』は)見忘れて、2回くらい、いつの間にか話が進んでたんですけど。仲間由紀恵さんが結構好きだから見てて。雰囲気。(今まで仲間由紀恵が出ていたドラマで見ていたのは)『ごくせん』、『トリック』。あんまりラブストーリー好きじゃないんですけど、まあ見ようかな、みたいな。仲間由紀恵が、お母さんの恋がなんとなくストーリーあったじゃないですか。それはここで終わったけど、仲間さんたちは終わらないかなって。先が気になります。(『東京湾景』がとても好きなのは)やっぱり仲間さんがいて。(主人公が違ったら)見ない。きれいさみみたいなこと。声とかしゃべり方とか、不思議な感じ。普通にもなんか。(相手役の和田聡宏は?)結構いい。(2人も役にはまってる?)はい。(テーマや仲間由紀恵がラブストーリー初主演という新しいことが多いのは)最初に見るきっかけにはなりました。宣伝とかしてて、仲間由紀恵がでるからって。(見ると)きれいだなーみたいな。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「(『トリビア』は)期待はずれの週もありますし、期待を超えることもありますし。(期待を裏切り続けは)しないですね。(ある程度の期待には答えてくれるピッチで)ありますね。(期待というのは)満足感ですね。見てよかったっていう。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『ガキの使いやあらへんで』は期待はずれになることもある?)そんなないですね。少ないです。他と同じようなことやって欲しくない。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「『ココロミラクルタイプ』は、単にココロコが好きなものもありますし。(ココロコじゃなくなれば)見なくなるかもしれないです。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『行列のできる法律相談所』が他と違うのは)あれは、紳助さんのトークが。(期待を)裏切らないですね。『ああ、なんで48、49歳になって、こんなおもしろいんだ』って。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「『この番組はおもしろいな』って思ってる番組が、期待通りおもしろかったら嬉しいですね。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『とんねるずやダウンタウンの番組だと出てくるゲストも楽しくさせてくれそう?])そうですね。スポーツ選手とか俳優とか、そういう人達も出てくるんで。特にお笑い同士でしゃべってるっていう感じじゃないんで。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『内村プロデューズ』は)本当しようもないことやってるんですよ。別に、笑いを期待して見てるっていう感じでもないんですけど。(ある一定の楽しさ)は、感じてますね。同じレベルで、同じくらい(楽しい)だろうなという期待はありますね、それは。ワンパターンっていうことですよ。逆に、そこがハマってるんですかね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ためしてガッテン』でも期待通りでない時も)あります。でも、まあ許せる範囲。(期待はずれの頻度はそんなに多く)ないです。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ためしてガッテン』と『おもしろきテレビ』の司会者が入れ替わったら?)すごくなんか不真面目っぽくなっちゃうような。やっぱり、志の輔さんの方を見ちゃいますね。やっぱり司会者かもしれないですね、左右されるのは。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

人間への興味 人間味を感じる

人間は、人間に対して興味を持っている。したがって、テレビ番組についても、人間味が感じられる番組ほど支持される。

例えば、「世界ウルルン滞在記」は、単に、海外の文化に触れられるというだけでなく、出演者が外国で何かを体験する場面から、その人のリアルな人間性が感じられる。「あいのり」では、バスツアーを通じて登場人物が変わっていく姿を自分に置き換えて見ている。日常見られる人間関係を素のままに浮き彫りにしている点が評価されている。

「めざましテレビ」は、温かい雰囲気があり、キャスターに人間的な側面がよく出ている。その局のキャスターというより、個人としての側面を強く打ち出している。

スポーツ番組では、単に、サッカーの試合の様子を伝えるだけでなく、インタビューなど、選手の素顔が垣間見えるコーナーは支持される。スポーツ選手の人間性などが見えたほうが興味はわく。

「TVチャンピオン」では、登場する出演者が一生懸命なところ、その闘いから熱いエネルギーを感じるところに好感を抱く視聴者もいる。作り物でなくリアリティがあるところがよい。

<具体的な発言事例>

人間味を感じる

「やっぱり『ウルルン』の方は実際生身の人間がその環境に入って体験するっていう面白さがありますので、たぶん(今でも)見てるんだと思うんですけども、まあ、実際に生の人間がその中に入って体験をしていく、『ふしぎ発見』の場合は史実とかに基づいたものを検証するみたいな感じで、ちょっと形は違うと思いますので、その辺が『ウルルン』の方が人間味があるので、その辺が面白いんだと思うんですけども。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『めざましテレビ』の大塚さんは)ただ雰囲気がこう、アナウンサーではあるんだけど、なんかこう人間的なあったか味があるような感じが、見た目の風貌も、話し方も、そういう部分があったりして、だと思っんですけども。会話も面白いですね。人間的なところが、見てて微笑ましいのかなんて言うのか、見た感じがしますね。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『スーパーサッカー』は)色んなインタビューも含めて他の番組では割と見られないような選手とか、そういうのも結構見られますので、そういう意味でとても、特に『スーパーサッカー』はかなり昔から見ます。『やべっち(FC)』の方はいつからだったかは分からないんですが、たまたま、なかなか他の番組ではインタビューできないような選手にインタビューを実際やったりとかあったもんですから、それで見始めてというところですね。実際そこにインタビューに行ったら何か一緒にゲームやったりとか、そういうのが実際に、普通の番組ではたぶん出てこないような選手も見れますので、素顔も見れて面白くなっていう感じがありますね。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『あいのり』は)人の考え方みたいな。見た目とギャップがある考え方を持つて人っていうのが結構あいのりでは多いと思うんですけど、その両面を見れるし、自分もなんか友達になった気分なんです。それで、今この時言えはいいのにとかこう、なんか勝手に自分の中では友達になってるんで。親近感っていうんですかね。ほんとに友達が出てくる感覚でいるんで、その人がどんどん変わっていくのを見てるのも面白いし、何かしら心に傷みたいなのを持った人が出てきてるんで、その克服とか、なんかこうやってこの子もがんばるんだから、私も、的な。自分も元気になれるようなところがあるし。全然人としゃべれない子がいたんですけど、ほんとにガラッと変わって、強い考え方を持つてんだなって。その子が自分よりもほんとは考えのない子なんじゃないかなって最初は思ってたんだけど、実はものすごい色んなことを考えてて、なんか自分自身ももっとしっかりしなきゃとか。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(とても好きな番組の順位付けに影響しているのは)例えば人かな。(『あいのり』の場合、人というのは司会者以外にワゴンに乗っている人?)はい。(その人に興味を持てるかどうか?)はい。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『TVチャンピオン』は)色んな、1つのものに一途な感じの人がいっぱい出てきてる。(感動する?)はい。(やらせじゃなくてその人の実力で、作り物じゃない感じ?)はい、作り物じゃないところはいい。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

リアリティ、ホンモノ感

専門性、ホンモノを感じられる

例えば、すでに映画化されているドラマは、原作がしっかりしているというイメージを持っている。そうした番組は、見る前から「期待を裏切らないであろう」という印象があり、ホンモノ感がある。

また、ニュースの場合には、コメンテーターに専門性がある、信用できるかどうかが評価される。したがって、コメンテーターは、ホンモノをイメージできる人、あるいは、発言や見解に信頼のおける人でなければならない。例えば、「ワールドビジネスサテライト」は、経済に特化した専門番組という認識がある。この番組を見てみると、視聴者が「経済通」になった気持ちになれる。

本音を受ける

バラエティでは、本音のトークが受けている。例えば、「とんねるずのみなさんのおかげでした」、「ダウンタウンDX」など、司会とゲストの本音トーク、暴露トーク(うちわ話や業界内のこぼれ話)などは好印象である。また、「サンデージャポン」のコメンテーターのように、専門家でなくても、本音でコメントするところに共感する場合もある。うそ、偽りのない意見に説得力がある。

< 具体的な発言事例 >

専門性、ホンモノを感じられる

「(『世界ウルルン滞在記』には)もうちょっと、ただのテレビ番組に、プラスアルファがあるのかなと感じました。(再会スペシャルで)東ちづるさんが行かれた件に関してなんかは、1回行って来て、その1回だけで終わってしまうのではなく、何回か回数を重ねて何度も訪ねて、その後の状況も伝えつつ報告もされますと、見る方でも、前にその番組に出た子供さん、怪我した方とか負傷したお子さんの話も出てきますし、その時だけで終わってしまっていない、継続性があったものですから、他の番組とは違うのかなと思ったんじゃないかと思いますけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『人間の証明』は)昔、映画とかになってて、本もベストセラーで、内容が重そうなので、しっかりしたドラマになりそうだなと思って。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ワールドビジネスサテライト』の方が)コメンテーターが多いですね。それがいいってわけではないですけど、番組の違いですね。あと出てくる人の意見が割としっかりしてるような気がします。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『ワールドビジネスサテライト』を見ると)ちょっと経済通になったような気分。(ニュース番組で)なんか意見として、政治的な意見する人とかいるんですけど、そういうのはあんまり好きじゃない。(『ワールドビジネスサテライト』のような)経済ニュースだとそういうのいいんで、なくても、専門家の意見とか、そういうのはあったら、キャスターの意見は別にどうでもいい。(『ワールドビジネスサテライト』は専門性がある感じ?) ああ、そうかも。(取り上げたことは全面的に信頼している?) そうですね。結構そのコメンテーターの言うことも信用しちゃうかもしれない。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『TVチャンピオン』は)色んな、1つのものに一途な感じの人がいっぱい出てきて。(感動する?) はい。(やらせじゃなくてその人の実力で、作り物じゃない感じ?) はい、作り物じゃないところはいい。作り物、ドラマとかはたまに観ますけど、前『あいのり』ってこのを見てて、すごいわざとらしいかと思って。あと『学校へ行こう』とかも、なんかちょっと面白かったんですけど、なんかわざとらしすぎて。(これはリアリティがある?) はい。なんか、熱い感じ。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「好きなのはやっぱりミステリーとか、世界系で、嫌いなのは超能力とか占いとか。食べ歩きもあんまり好きじゃない。絶対おいしいって言うからやだ。(作り物系が嫌い?) はい。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「(『その時歴史が動いた』は)ほとんど見ます。これは単純に歴史が好きなんで。歴史上の事件の再現とかもやっていますし。脚色はしてないですからね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ためしてガッテン』がとても好きなのは)やっぱり司会者と、『真剣に取り組んでるのかなあ』とか思うことも。(『ためしてガッテン』は)本当に信じちゃって。安心感が。やっぱり『スバスバ』とか、そういう『カテイの魔法』とか『あるある大辞典』なんかは、娯楽的に見れば『ああ、こんなもんか』って。娯楽が主で、あと知識は疑問符がついちゅう感じ。娯楽的には見るっていう感じ。(『ためしてガッテン』のようにホンモノのちゃんとしたことを教えてくれる方が好き?) そうですね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

本音が受ける

「(『ワールドダウンタウン』のやらされてる感は)全面には出てないですけど、たまーに。ダウンタウン自身もやらされてるだろうとかいうのがあって。(普通のイメージと)違うかも。松本人志がいつもなんか何もやらないような感じですけど、一生懸命なんかやったりする。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(休みの日は)『サンデージャポン』。見たいと思っちゃう。合わせちゃいます。そこで、知らなかったニュースとかも知れるし、出てる人も好きだし。爆笑問題とか。テリー伊藤の言ってることも、すごい考えさせられる。そのニュースをただ聞き流すんじゃなくて、それを深く考えようとするので、自分もちゃんと考えなくちゃいけないなって。ただ普通のニュース番組だと、ただそういうことがあったんだって思うだけで、考えることができるのがすごい。(コメンテーターのコメントに説得力が)あります。(なるほどなという感じ?)うん。(出演者は)高田万由子とか。(飯島愛とか)ダンカンとか。(専門家が出ていると)私と同じレベルでの考え方じゃない、専門的だからちょっと。ほんとに専門家のレベルの考え方しかできない人ってたまにいるじゃないですか。それが。(出演者は共感できる答えを言ってくれる?)そう。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『みなさんのおかげでした』は)いろんな芸能人とかゲストで出てくるじゃないですか、いろいろ考え方とか、本音の部分で、番組で流してるんで。ああいうトークが、まあ好きだということですかね。本音で結構いろいろ、番組内でもしているところがおもしろいですしね。業界内のこぼれ話みたいなのところですかね。暴露話とか、ギャグでやってるとか、裏方のこぼれ話ですよ。内輪ネタを結構ふつうにやってるっていうのが、やっぱり他の番組にはあんまりないかなって。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ダウンタウンDX』は)トークのかけ合いっていうんですか、ゲストとダウンタウンがこう、しゃべりですよ。結構、ほんとにバカにしたようなことも言ってますんで。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(他の好きな番組と『みなさんのおかげでした』や『ダウンタウンDX』の好きな部分は)やっぱり、一緒ですね。今までの好きなお笑い番組と、やっぱり。(『踊る!さんま御殿!!』はさんまと)ゲストとのトーク。似てますね、みんな。『ジャンクスポーツ』も、ダウンタウンの浜田が司会やってる、スポーツ選手とトークする番組。純粋にお笑いというよりも、ゲストが来て、いろいろ本音でしゃべって、それでまた笑いを生むという番組だと思いますね。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

知識欲求の充足

役立つ、知識が得られる

「ためしてガッテン」や「伊東家の食卓」などは、日常生活に役立つネタが提供されていて参考になる。生活に密着している情報だけに、情報を得たことで納得感がある。「知って嬉しい」「目から鱗」といった言葉が聞かれた。似たような番組でも「それって本当？」と疑問符がつくような番組は支持されない。説得力があって、わかりやすいほうが高評価である。

<具体的な発言事例>

役立つ、知識が得られる

「(『ワールドビジネスサテライト』を見ると)いち早くっていうか、新製品って今までなかったようなものが多いんで、見ると面白いんですよ。こんなのできたんだとか。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『世界仰天ニュース』のおもしろさは)なんか、世界の面白げな、知らないことをいっぱいやって、あと外国人がいっぱい出てくるのかも。ひとつひとつ事件とかを外国人が再現してて、なんかミニホームドラマみたい。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「(『世界仰天ニュース』のおもしろさは)新しい知識が得られる、みたいな。」

< D T女・17歳・未婚・学生 >

「(『トリビア』を見ると)知識欲が満たされるっていうか、そういう感じ。『トリビア』が好きに代わる言葉では『(とても)おもしろい』の方があてはまります。あと『満足している』とか、『満たされる』、好奇心とか、『ああ～、そうなんだ。知ってよかった。』とか。(見た後の満足感)はあります。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『虎の門』がおもしろいというのは、単純に笑えるよりも)『瀧蓄王』とかあの辺は知識欲、『トリビア』に似た感じ。話術すごいなとか。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『ためしてガッテン』は)なんかこう、知らないことが知識としてやってくれるんで、『すごく役に立つな』なんて思って。そしたら最近なんか、いろいろお料理の、『枝豆のゆで方』とか、そういうすごく役に立つことが多くて。(実践してみることは)ありますね。枝豆はさっそくやってみたり。(『ためしてガッテン』の好きなのは)やっぱり、役に立つことですか。それとあと、お料理とか、そういう実際にやってみせる実習コーナーみたいなコーナーがあるんで、それもすごく参考になったり。おもしろいというか、役に立つ。笑える感じではないですね。『納得するな』っていう感じが。まじめっていうか。(知って嬉しい?)そうですね。もう本当に、生活に暮らしに密着したっていう感じ。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ためしてガッテン』は)実習コーナーがためになりますね。よくパネルでまとめてくれてて、すごくわかりやすいですね。(この番組を見ることで)知らないことが、情報を取り入れるっていうか、自分の中に。本当『目からウロコ』っていうのも結構あるから。全然、難しくないです。(説明も)わかりやすいですね。キャラクターがなんか使ってくれてくれるんで、ものすごいこう(わかりやすい)。例えば、コレステロールだったら、悪玉の着ぐるみが出てきてやっつけるとか。なんかこう善玉をこう、すごいわかりやすい。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『伊東家の食卓』は)テレビ欄で『こういう裏ワザがあるよ』って、2～3個紹介されてるんですよ。で、その紹介されてる文で、『あ、今日は見よう』とか、『今日はやめよう』とか。ただ、すごくいいテーマだったり、いい裏ワザだったら『ああ、絶対見なきゃ』とは思いますが、これはいろんな裏ワザがあるから、試してる裏ワザもあるし。身近で役に立ちますね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ためしてガッテン』のとても好きなのは)やっぱり、自分の役に立つっていうか知識になるっていうか、それもあるし。自分の中にないから欲してるっていうか、そういうことがあるのかもしれないですね。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

自分との一致

自分の興味に合致している

例えば、韓国に興味を持ってハングルを習い始めていたときに、タイミングよく、在日韓国人をテーマにした「東京湾景」が始まったというように、自分の抱いた興味に合致した番組は好感度が高い。その時期のトピック、世評などを的確に捉え、タイミングよく、旬のテーマを選定することがポイントとなる。変化する世の中の関心事をキャッチし続けることが必要である。

自分の年代に合っている

司会者やゲストが自分の年代に合っていると違和感がなく、安心して番組が見られる。特に、40代以上については、20代、30代の頃にデビューし、人気を得てきたタレントが出演する番組ならばリラックスして見られるが、最近登場してきたタレントが出る番組はとつきにくい。例えば、「ダウタウンDX」は安心して見られるが、「はねるのトびら」には興味はわからない。

ゲストの年齢が同年代であると、共感が持てるため、視聴しやすい。同年代の意見であれば、その意見に納得できる面も多く、親しみがわく。

番組の制作センスがよい

番組制作者のセンスがよい番組も評価される。言い換えれば、番組が視聴者の感覚と合致したときに評価される。但し、作り手の感覚まで捉えられる視聴者は少ないため、好感度評価において、さほど大きな要素ではないと思われる。テンポや構成などにこだわって作っていることがわかる人は多くない。

< 具体的な発言事例 >

自分の興味に合致している

「(『世界ウルルン滞在記』で見逃せないと思う回は)自分が興味があるものを、何かそこで料理なり物を作る、それがたぶん自分がとても興味のあるものが今回のテーマになっている、それを作るとかっていうのを見た時には、これはちょっと見ておきたいなと思うと思うんですけど、それがその秘境に行つて冒険っぽいものとか、ちょっと最近、自分自身もあんまり興味ないのか、その辺のテーマだと、もういいかなと思って見ないと思うんですけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『東京湾景』は)今韓国語を自分が勉強してますので、そのこともあって、テーマが在日韓国人の方が主演のテーマのドラマということで、音楽も韓国の方の音楽を使うっていうこともあって、今自分が興味を持てるものが全部そこにあったこと。(始まる前の情報は)番組のホームページで。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「今はともかく韓国語を勉強し始めてるってことが一番見てるきっかけだと思いますので。あとそのテーマ曲とか挿入歌がそのまま韓国語で流れてますし、やっぱりそれを聴いてるととても心地よく感じますので、そこが一番でしょうか。ドラマの中にもちょっとだけ韓国の文字とかも出てきますから、それが自分が見てて分かりますから、ととても自分からみて嬉しいですね、やはり、それが一番だと思うんですけど。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「(『その時歴史が動いた』は)ほとんど見てます。これは単純に歴史が好きなので。歴史上の事件の再現とかもやってますし。(他には)『NHK将棋トーナメント』とか、確かそういう。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「私の父がガンなんで、『ためしてガッテン』でガンの特集やった時に、妹に『ちょっと見てみて』って言われて、それからなんかやみつきになっちゃったんで、きっかけが、たぶん3~4年前かな。今はもう毎週。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ポチたま』は)近所でイヌとかネコとか、ペットを飼いだしちゃって。うちも欲しいけど、やっぱり留守にすることが多いんで、『癒し系のテレビないかな』って感じで、あちこち見てたら、『どうぶつ奇想天外』と『ポチたま』やってて、『どうぶつ奇想天外』は、割合おもしろいんだけど、ちょっとクイズ形式で、じっくりやってくれないんですよね。で、『ポチたま』は、本当におもしろいんですよ。(見ると)よけいに欲しくなっちゃうんですけど。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「『ポチたま』はイヌとネコが主体で、『どうぶつ奇想天外』の方は、ペットじゃなくしている動物ありますよね、オラウータンとかサルとか、たぶんその違いだと思うんですけど。やっぱり身近に感じるのがペットっていう。(『どうぶつ奇想天外』は)知識としてはおもしろい、いろんな知識、情報があるから見るけども、ただ身近じゃないなっていう感じ。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ポカポカ地球家族』は)その場所によって決めちゃうんですよ。世界各国やってて、自分の興味のある場所だと見るし、『ああ、日本人がこうして暮らしてるんだな』とか思いながら見ます。あと、海外旅行で行きたい所の場所に住んでらっしゃる家族のお話だと見ちゃいますね。やっぱり『海外旅行、行くんだったらこういうところ行きたいね』っていう話にはなりますね。話題作りにはなりません。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

自分の年代に合っている

「(『あいのり』を見てると)自分もなんか友達になった気分なんです。それで、今この時言えいいのにとかこう、なんか勝手に自分の中では友達になってるんで。親近感っていうんですかね。(出ている人が同じ世代という感じがする?)そうですね。(出てみたい?)思います。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「『ガキの使いやあらへんで』は)これももう、中学、高校の時くらいからずっとなんですけど、やっぱりおもしろいなって、これも企画が、他でやってないような企画をやってるんで。トークももちろん好きですけど。ちょうど僕が中学、高校の時代っていうのは、『ごっつええ感じ』とか、『一人ごっつ』とか、すごく身近で、学校で話題になったりとか、やっぱりすごく身近に感じます。(おもしろい)感覚は、昔ほどしないですけど、好きではあります。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(録画するのは)お笑いが好きなんで、バラエティ番組が多いですね。どっちかっていうと、(若手よりも)昔からの。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『みなさんのおかげでした』は)とんねるずが好きなんで、結構。世代的にも結構近い年代ですし。彼らのギャグが、年代が近いんでわかりやすいっていうか、共感呼ぶっていうか、まあそういう部分もありますし。昔の番組内容よりも、今の方が逆に好きですね。昔は子供向けのかぶりものみたいなやってますけど、今の方が逆にちょっとこう大人が見ても耐えうるような感じになってきてるんで。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「あまり若手は見ないんですよ、どちらかという。まあ、つけてやればちょっと見たりはしますけど。自分からは、見ようと思っは見ないですね。(とんねるずなら年代も近いので)なんか安心できるというのがありますよね、見てて。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『みなさんのおかげでした』は)昔から同じようなことやってると思いますけどね。好きなものは特別(マンネリは感じない)。他のお笑いよりは、ちょっと落ち着いた感じがありますよね。動きが激しくないですし。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ダウンタウンDX』のダウンタウンは)まあ好きっていうか、好きか嫌いかって言われれば好きの方に入りますし。やっぱりボケとつつこみでもって。デビューしたてくらいの時から、知ってましたんで。まあ、しゃべりはやっぱり結構いいなって。(番組自体は)そんなに幼くもないですか。ゲストの年代とか考えるとね。(とんねるずやダウンタウンが好きなのは、1番ピークの時を知っているというの)もありますね。(自分達世代のお笑いタレントという感じ)もありますね。今の若手だと、ちょっとわかんないなっていう時もありますからね。(見慣れていて安心感が持てるというの)それもあります。」

< F M2・44歳・未婚・給与所得者 >

「(『ためてガッテン』は)やっぱり、志の輔さんの絶妙な司会ですかね。割合、年齢が高い人がゲストだから、よけいに共感を得るのになって。1人だけ、山瀬まみさん？彼女だけ意外と若いんで。あと意外と年齢のいった方が多いので、やっぱりそういう層を狙ってるのになって思うこともあります。(ゲストは)40代、50代。(同年代?)ええ。(同年代が出るから)だからよけいに、なんか共感を得るっていう。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

「(『ポカポカ地球家族』は)好きで、『ウルルン滞在記』は)そうでもないのは?結局、主役がちょっと違いますよね。こっち(『ポカポカ地球家族』)は)家族だけど、(『ウルルン滞在記』は)彼ら達は若い(タレントなどが)行くから、受ける感じがちょっと違うのになって、たまに見てますけど。」

< G F3・56歳・既婚・専業主婦 >

番組の制作センスがよい

「(『ズームイン!』を見なくなったのは)たぶん、キャスターのせいだと思うんですけども、『ズームイン!』っていう番組が、あれもなんとなく、ニュース番組ではあるんだけど、やっぱりちょっと茶化した感じが、自分としてはあまり好きではなくて。番組自体の作り方がなんか自分が見てあんまり好きではなくなってしまったことがあって。たまたまその時に『めざましテレビ』のたぶん、元NHKの大塚さんってアナウンサーが出てらして、ちょっと見た時に、なんか面白いのかなと思ってそっちを見始めて、そのままそっちに変えてしまいましたので。(『めざましテレビ』は)もちろんその面白おかしくの部分はあるんですけども、たぶん私が自分で考えるその茶化し方が、自分の基準からして許せる範囲だと思うんですけども。それまたたぶん、その(大塚さんや軽部アナの)キャラクターのせいもあると思うんですけども。」

< A F2・49歳・既婚・専業主婦 >

「よくある、番組の雰囲気やスタッフの笑いとかで作ることもあるじゃないですか。そうじゃなく、『ワールドダウンタウン』は)番組自体が面白いんだと思うんですけど。企画、構成が。」

< B F1・22歳・未婚・パートアルバイト >

「(『あいのり』のテーマ曲が)変わった時、スピッツになった時が一番やっぱり、なんだろう、スピッツが好きになっちゃって。あんたよく協力してくれたっていうか。(ELTとか)ありましたけど、その時は、キャラクター的に協力しそудなっていう、なんかそういうのがあったんですけど、スピッツ、あんたも来たかっていうのがあって。新たに見始まった時は、こういう(相関)図、誰が誰を思っっていう矢印付きの、あれはすごいありがたいなと思って。あそこあって。(日記のところが主体なのも)好きですね。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(単に笑えるからというよりも)ロバートの秋山が好きとか、彼らが笑わせてくれるから『はねるのトビら』が好き?そうですね、きつと。『エンタの神様』も、あれが好きだったんですよ、陣内智則が好きで、それも最近出なくなったから、っていうのもあったかも。(好きなお笑いが出てたら)見ちゃいますね。その私のツボに合ってるような。(お笑いはこのお笑いタレントが出ているから?)はい。(常に自分の期待に応えてくれる?)ああ、そうですね。絶対笑ってるんで、私とツボが合っているよう。」

< C F1・27歳・未婚・パートアルバイト >

「(『トリビア』は)センスがいいっていうか、作り手の感覚が好きなんです。見せ方だったりとか。作り手がおもしろいと思う見せ方が、一致してるなって僕が勝手に感じてたんですけど。『へえ〜』と思うトリビア自体がおもしろいんですけど、そのトリビアの見せ方もおもしろいし、それを『へえ〜』で表したっていう考え方もおもしろいし。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

2. 「とても好き / とても面白い番組」を構成する要素

< 具体的な発言事例 >

「(『トリビア』を見てると)バラエティのセンスも共感できるんで、すごくテンション高い。(他の番組よりも好きなのは)基本的にセンスだと思うんですけど、『トリビア』に関しては、もう、昔から好きなんで、お笑いが。(ビデオに毎回録っていた時は)繰り返し見たりとかしてました。『トリビア』のテンポは好きですね。悪くないっていうか、見やすい。内容がつまらない時に変えるんですけど、次また何かやってるのかなってまた変えちゃうから。たぶん、あまり『トリビア』は長い時間引っ張ってないんで、1つのトリビアに、5分とか6分とかその間中断してるんで、仮にチャンネル変えたとしても、また気になっちゃって。次やってるのが気になっちゃって。で、テンポがいいから、そのままずっと1時間見れちゃう。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「何か、自分達『トリビア』を作ってる人達の世界をすごく見える感じが。(作り手が)自分達が好きで『これがおもしろい』とやっていることをやってる感じがして、それに共感できるっていう。(『いい腕してるな』という感じは)してます。プロっぽっていうか、初めて見たとき本当すごいなっていうか、『このセンスは!』って。めったに思わないですけどね。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「他で真似できないような企画なんで、やっぱり、『それ30分もやって、誰が見るんだろう?』みたいな企画やってるんで。(『よくやるな』みたいな)それもある。『ああ、センスあるな』って。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(『虎の門』など好きな番組でも)よっぽど、なんか、『あれ、感じ変わっちゃったな』って思ったら、番組の『なんか、あれ? スタッフ変わったのかな』とか、感じが明らかに違うなって思ったら、おかしいと思って見なくなったりしますけど。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(好きな番組に共通するのは)こだわって作ってる感じはしますね。(番組として)よくできてますね。やつつけでやってないっていう。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

「(他のバラエティ番組と好きな番組との違いは)なんか(自分に)合わない。さっき『みなさんのおかげでした』って、『とんねるずのみなさんのおかげです』の方は見てたんで、仮面ライダーとか、見てたんで嫌いじゃないんですけど、なんか合わないんですよ。『内村プロデュース』のセンスとか、『みなさんのおかげでした』のやっているおもしろいと思うことがあまり合わない。(出ているタレントが嫌いとか)そういうことでもないです。特に好きとか嫌いとかでもないの。」

< E M1・23歳・未婚・学生 >

日常生活において、パソコンや習い事など、テレビ視聴以外の時間が占める割合が増加し、相対的にテレビ視聴の時間が減少している。以前は、習慣的にスイッチを入れていたテレビも、他の生活行動に優先されるケースが増えてきている。

また、以前に比べてテレビに関する話題が減ったという声が多く聞かれる。人気のある番組でも、「番組見た？」という話よりも、「お笑いのいいよね？」というようにお笑いタレント自身を中心とする会話に変化してきている。特に、10代、20代においては、テレビ番組そのものを話題とすることは少なくなっている。

そうした状況の中においても、好感度が高い番組については、総じて、テレビの前で集中して見ていることが多く、携帯のメールチェック、パソコンなど、何か別のことをしながら見ているケースは少ない。また、CM中でもザッピングすることは少なく、CM記憶率も高いと推測される。

では、具体的にどんな要素を含んだ番組が好感をもたれるのであろう。好感度を上げるための主なキーワードとして「新規性、オリジナリティ」、「新鮮さ」、「情動喚起」、「リアリティ」などが浮び上がってきた。

いつも新しいと感じる番組、すなわち、構成の変更、コーナーの入れ替え、MCの交代など、マンネリ化させないために常に変化させ、新しい試みを継続的に行うことで、新鮮味を出し続けている番組は好感度が高い。

また、「心が温まる」、「ホッとする」、「ゲラゲラ笑える」、「もらい泣きする」など、心の機微に触れる番組、すなわち、喜怒哀楽が感じられる番組は評価が高い。「ワクワク、ドキドキする」といった動物の本能を掻き立てる要素が重要である。

今後、番組を提供する側としては、番組が視聴者にどう受け止められているのかを継続的にキャッチし、その変化を捉えながらその都度、「新鮮さ」を出していく必要がある。「変化させ続けること」によってのみ、好奇心を煽り、好感を得ることが可能である。

マンスリーリサーチ

テレビ番組の好感度に関するマーケティングデータ

発行日 2004年8月31日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ enquete@titan.ocn.ne.jp